

スナップエンドウに対する 遮光資材の効果確認

JAきたひやま

本井 嘉宏



試験ハウス(クリンテートSK展張)



慣行ハウス(メガクール展張)



試験ハウス内 6月20日撮影



慣行ハウス内 6月20日撮影



選別の様子



7月18日撮影

試験目的

スナップエンドウに対する遮光資材の効果確認

試験作物 及び品種

スナップエンドウ(ニムラサラダスナップ)

試験資材 及び数量(規格)

クリンテートSK(0.075mm×420cm×50m) 2枚

慣行資材

メガクールネット40

栽培方法

| 播種日 | 定植日 | 収穫日 |
|----------------------|-------|-----------|
| 3月上旬 | 3月23日 | 6月上旬～7月下旬 |
| 【栽植密度】 5 ベッド 株間：10cm | | |

資材使用期間

6月中旬～7月下旬

試験区面積

330㎡(100坪)

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

内張りカーテンで使用するため、天候の急変時でも上げ下ろしが楽だった。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

生育は試験品も慣行品も変わりなかった。
収量は比較していないが、他の作業に追われて試験品の展張が遅れ、5月下旬の高温に当たってしまったため、試験区の方が収量は良くないと思う。
試験区の方が慣行区よりもスナップエンドウの色づきが良かった。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】：二重ハウスに巻上機を設置して使用したため、上げ下ろしが楽だった。試験区の方が慣行区に比べハウス内が全体的に明るく感じた。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

慣行品は3～4年使えば色が抜けて遮熱効果が薄れてしまう。
慣行品と同等以上の期間使用できるか、今後見極めていきたい。

モニター感想

ハウス内の温度は試験区も慣行区もほぼ変わらなかったが、内張としての使用だったため、上げ下ろしが楽だった。

苗の移植時から使用すべきと感じた。
スナップエンドウの栽培終了後、ほうれん草でも活用した。

今後も資材関係の情報を提供いただきたい。

JA担当者の感想(販売課 綿路係長)

今回は内張として展張したが、外気との温度差は十分体感できたが、慣行区(メガクール)との比較では、同程度の体感温度だった。

慣行品では、展張したままで曇天続きになると、収穫物の色が淡くなるように感じるが、試験品ではあまり気にならなかった。

今回の試験では、栽培途中からの試験となったため、試験前に一度高温に当たってしまったので、もう少し早く設置したかった。

スナップエンドウの後作にほうれん草を栽培している生産者に対して、外張としての使用も検討してみたい。

今後の使用について

継続して使用したい。

ハウス内での使用のため、部材の手当ができるなら活用したい。

今年クリンテートSKを展張したハウスでは、来年ほうれん草を栽培する予定。

将来希望する資材について

安価で長期間使用できる遮光・遮熱資材があると良い。

農ビが主流の時代から農POを使用しているが、当地区は風が強く、天井部の擦れによる痛みが多く出るため、何か良い方法があったら教えていただきたい。

【参考資料】
檜山農業改良普及センター
檜山北部支所コメント
 (JAきたひやま 本井氏・若林氏)

本井氏の遮光資材試験のコメント

慣行のネット型遮光ネット外張りハウスと、クリンテートSK内張りハウスでの、スナップエンドウの成長点付近の気温の推移を測定した結果、有意な差は無かった(図1)。

設置時に作業労働力が増加するものの、栽培期間においては、慣行の遮光ネット外張りの展張作業と比較して、十分に省力化が可能である。また、きめ細かな管理が可能のため、急激な天候変化への対応にも期待できる。



写真1 クリンテート SK 内張り区



写真2 容易な管理作業

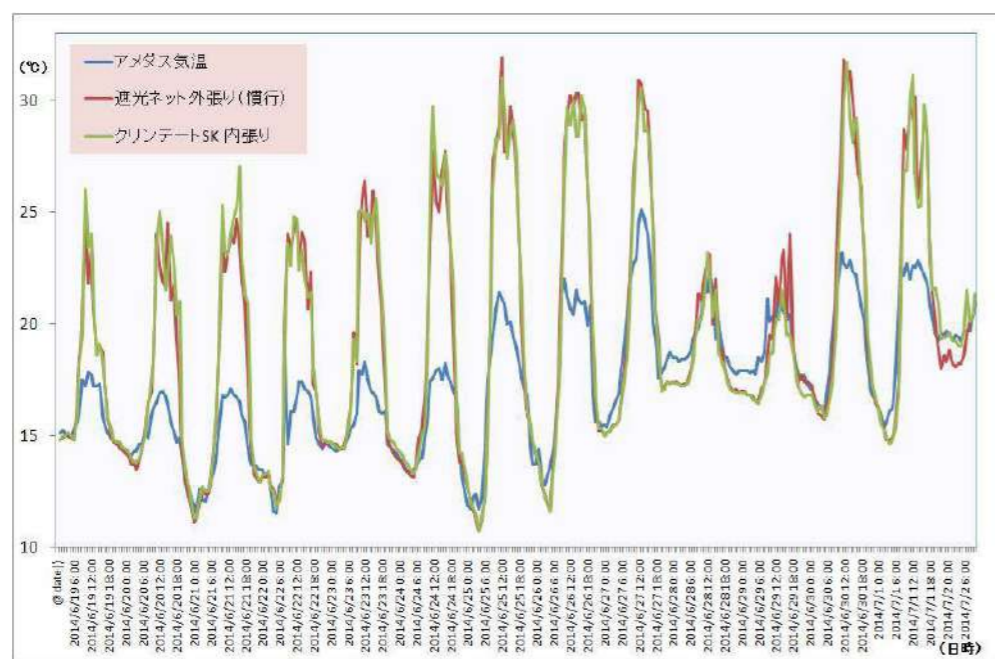


図1 クリンテート SK 内張りと、慣行(メガクール)の比較

若林氏のUVカット試験のコメント

萎凋病の発生程度に差はみられず、萎凋病軽減効果は判然としなかったが、誘引シートへの虫の付着はUVカット資材ハウスで少なく、虫害の軽減効果に期待ができる。



*3作目のUVハウス区
の定点で、枯死率
がやや高かった。

表1 定点における枯死率(1区20~25株の調査)

| | 一作目 | 二作目 | 三作目 | 平均 |
|-------|-----|-----|-----|--------|
| UVハウス | 25% | 25% | 50% | 33.33% |
| 慣行ハウス | 33% | 30% | 35% | 32.78% |

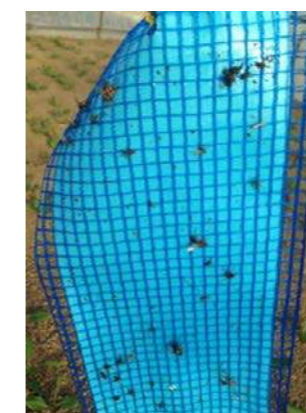
*間引き後以降に枯死した株数を調査した。
ハウス全体の発生程度ではない。



UVカット



慣行ハウス



UVカット



慣行ハウス

(担当:千田専門普及指導員)

1 クリンテート

2 高温対策

3 害虫忌避効果

4 生分解性マルチ

5 育苗資材

6 酪農資材

7 その他